

通常聖年開幕ミサ

聖年の希望の旅や 聖家族



2025年通常聖年開幕ミサが、前田万葉大司教の司式のもと約1500人が集まり、12月29日に大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂(大阪市玉造)でささげられた。ミサは、城星学園のグラウンドから出発する行列で始まり、聖年の開幕が盛大に祝われた。ミサの中で、教区内19の巡礼指定教会も紹介された。

12月29日14時、城星学園のグラウンドに集まった会衆約1500人は、聖年の大勅書朗読の後、大阪カテドラル聖マリア大聖堂に向けて大司教と司祭団を先頭に行列を組んだ。行列は途絶えることなく続き、聖堂は会衆で埋め尽くされた。大司教は、会衆を聖水の濯水で祝福された。

説教で前田万葉大司教は、「この開幕ミサの正式入場(行列)で、私たち聖家族として希望の巡礼が始まりました」と通常聖年のスタートを宣言され、「巡礼手帳」を使った巡礼、免償の恵みにあずかるよう勧められた。また、「いのち輝く未来社会のデザイン」という「希望」が強調されたテーマで開催される、大阪関西万博の年でもあり、イタリヤパビリオン内に設置される「バチカン展」のテーマも「美は希望をもたらず」になる。大司教は、この聖年と万博を新しい福音宣教のチャンスと捉えようと語った。大司教は、「障がい者、病者、弱っている人、貧しい人は教会の中心

冬晴れの下、行列でスタート



2025

発行所 大阪市中央区玉造2-24-22 カトリック大阪高松大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700(代表) TEL (06) 6946-3223(直通) FAX (06) 6946-3224(直通) E-mail: kyokuh@ostk.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」があります。〈無料〉 ※ご希望の場合は下記まで申込み 「点訳版(点字本)」 教区報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・デジ)」 山口さん ☎0798-34-4228



桜町教会の扉を叩いて 司教座聖堂へ

であり、わたしたちが人間らしい関心を注ぎ、司牧的配慮を払う第一の相手でなければなりません」との教皇フランシスコの言葉をとり上げ、「シノダリティ(ともに歩む)家族的教会」を目指すフランシスコ教皇の呼びかけにこたえて、バリアフリー、手話や要約筆記、共助などの「合理的配慮」を積極的に推進し、障害のある人が障害のない人の支えを受けながらともに巡礼をするような、家族的

12月29日聖家族の祝日の午後、共同司教座聖堂桜町教会に主に四国内の信徒約120人が集まり、2025年聖年開幕の行事として、開門式、ミサ、日本酒樽の鏡開き、コンサートが行われた。

開門式とミサは酒井俊弘補佐司教主司式により行われ、隣接する桜町聖母幼稚園園庭での大勅書の朗読などに続き、聖堂前まで短い行列が行われ、酒井補佐司教は閉じられた聖堂の扉を力強く叩いて門を開きミサが開祭され、ミサ後には樽酒の鏡開きが行われた。祝い酒は聖年の喜びを表すものとして、ペットボトルに小分けし四国内の教会・修道院に持ち帰ってもらい、この日参加されていなかった団体には後日四国内カトリック会館から届けられた。コンサート参加は2グループと少なかったが、元

な合理的配慮、司牧的配慮をもって聖年の恵みにあずかるよう語られた。そして説教を「聖年の希望の旅や去年今年」との句をもってしめられた。共同祈願は多言語で捧げられ、さまざまな国の会衆がまじりあい、心を一つに祈る、まさに聖年の精神を表す祈りの場となった。ミサ後、コンサートが開催され、多国籍の11組が楽器演奏や合唱・独唱などで聖歌を中心に披露した。

大阪高松聖マリア大聖堂コンサート



聖年巡礼手帳



気がいっぱいコーラスやブ口顔負けのソロ歌唱で盛り上がり、最後はテゼの祈り「いつくしみと愛(ウビ・カリタス)」と「たたえよ神を」を合唱して喜びの集いを締めくくった。



コンカテドラル桜町コンサート



巡礼指定教会一覧

- 《兵庫》・相生教会・姫路教会・加古川教会・たかとり教会・夙川教会・芦屋教会 《大阪》・大阪カテドラル聖マリア大聖堂(玉造教会)・大阪梅田教会・大東教会・高槻教会・堺教会・岸和田教会・泉佐野教会 《和歌山》・和歌山紀北教会 屋形町聖堂 《徳島》・徳島教会・阿南教会 《愛媛》・松山教会 《高知》・中島町教会 《香川》・共同司教座聖堂(桜町教会)



専門職者の使徒職 カトリック看護師のケア

日本カトリック看護協会(JCNNA)は、教会法に基づく国際カトリック看護師・医療社会補助者協会(CIAMS)に属し、1930年代にピオ11世が同会に向けて語られた看護師の使徒職をその養成基盤としている。ピオ11世は世界の司教への書簡や同会世界会議において、カトリック看護師の使徒職は、キリストに倣い、技術を高めて患者に身体的癒しを与え、愛をもって新たな命を吹き入れることであると述べた。そのためにカトリック看護協会は、社会の物質主義や生命倫理に挑戦する先端技術から看護師の使徒職を守り、信心深さによるケアの形成を促すよう求めている。

そこで、JCNNAは、科学的看護学で養成された日本のカトリック看護師のために、哲学的なパストラルケア(牧者の寄り添い)を学ぶのみならず、科学的な理論をもってスピリチュアルケア(霊的癒し)を提供するための養成を提言する。既に昨年8月、筆者は、ナイロビでの世界会議において、ドイツのイエズス会士らとの共同研究を踏まえてスピリチュアルケア能力を高めるための科学的アプローチを公表している。

(文) 国際カトリック看護師・医療社会補助者協会理事・アジア地区長 清水裕子

大阪北地区 梅田ブロック合同堅信式

堅信や王キリストの仕合わせに

11月24日(日)、『王であるキリスト』の祝日に大阪梅田教会で、前田万葉大司教主司式、デグスマンエリックバウチスタ神父とオソリオ・フェルナンデス・アントニオ神父の共同司式により、関目教会所属信徒5人、大阪梅田教会所属信徒17人の合同堅信式が執り行われた。

日本語、英語、スペイン語で書かれた『聖霊の七つの賜物』を祭壇前に掲げ、ミサ中に受堅者全員の決意表明が奉納された。

大司教は説教の中でゆるぎない信仰の二本として26聖人の少年の話をされた。長崎への道中「信仰を捨てれば命を助けてやろう」と言う役人に対して少年は「束の間の命と永遠の命とを換える事はできない」と断った。

王であるキリストの祝日に堅信の恵みを受けた22人がキリストの守護のもとで聖霊に励まされ、導かれ、信



秘跡を体感する22人の受堅者

仰の道を通つ直ぐ歩むことができるよう、参加者一同は祈りの内に見守った。



5月から月1回の学習会、売布での1日黙想会、そしてゆるしの秘跡。この日に向けて準備を重ねてきた受堅者たちは皆、安堵と喜びで輝いていた。

受堅者の1人、溝口ローウエナさんは「今まで以上に思いやりを持ち、教会の事に積極的に関わり、主キリストについての理解を深めたいと思います」と話した。ミサ後、祝賀パーティーが開かれ、持ち寄りの珍しい多国籍料理を堪能し、会場は和やかな笑顔あふれる交流の場となった。

大阪梅田教会紹介

- ◆守護 聖家族
- ◆大阪市北区豊崎3-12-8
- ◆06-6371-4060
- ◆設立年月日 2011年3月6日
- ◆信徒数 1148人
- ◆ホームページ



◆教会の特色と特徴

大阪の北の繁華街梅田という街中に建っているサクラファミリアの中にある大阪梅田教会。交通の便もよく多方面より信徒の方に集まっていただけの教会。近隣には大きなホテルもたくさんあり、外国からの旅行者のかたがたを含め外国籍の信徒の方も特に主日のミサに大勢集まってくたさるということ国際色豊かな教会というのが特徴です。

伊丹教会創立75周年

希望の灯をともし新たな一歩



福音の種まきを続け100周年、150周年に向かって

王たるキリスト伊丹教会は、1949年4月29日に岡田利兵衛氏宅(伊丹市の酒蔵岡田家)での初ミサで産声を上げた。待降節第1主日と「宣教地召命促進の日」の祈願日に当たる12月1日(日)に、酒井俊弘補佐司教より、伊丹教会創立75周年に加えて「待降節黙想会」のミサを司式いただいた。

酒井司教は説教で「待降節は、大切な人(イエス様)を迎える心の準備と信仰を深める機会です。今年、伊丹教会は75周年の歩みを振り返り、感謝と新たな歩みを始める時を迎えました。聖書の朗読では、救い主の出現やキリスト再臨への希望が語られ、祈りの姿勢を強調されました。エレミアの予言では、バビロン捕囚の苦難の中で救い主の出現が希望として語られ、ルカ福音書ではキリストの再臨に備える心構えが示されます。祈りとは日々の行いや仕事を神に捧げることであり、行動が信仰の実践となる」と話された。黙想会では「5分早く教会に来て黙想する」など、信仰を深める具体的な方法が提案された。「75周年を迎える伊丹教会は、「変わる」ことで次の100周年、150周年に向かって歩むことをお祈りします」と結ばれた。

創立75周年を、2024年4月29日(月)にオブレート会の神父様方と、そして今回は酒井司教様と2度の御ミサで祝福いただき、伊丹教会にとって素晴らしい記念の1年となった。

伊丹教会紹介

- ◆守護 王たるキリスト
- ◆伊丹市鈴原町1丁目9-1
- ◆072-772-2487
- ◆設立年月日 1949年4月29日
- ◆信徒数 498人
- ◆ホームページ



今治教会

コンサートのメンバー



2024年12月24日(火)、今治教会で行われたクリスマスの夜半ミサは、多国籍な参加者が集まる国際色豊かな催しだった。ミサの前にはキャンドルサービスが行われ、その後、子どもたちが楽しみにしていたサンタクロースが登場し、プレゼントが配られた。ミサの後にはパーティーとコンサートが開かれ、2021年に結成された国際演奏チームが演奏を披露した。フィリピン人、ベトナム人、日本人など16人のメンバーが、チェロやヴァイオリン、オルガン、ピアノ、フルートといった多彩な楽器で彩り豊かな音楽を奏でた。「世の人忘るな」といった厳かな聖歌から、「フェリス・ナビダ」のような明るい曲まで幅広いレパートリーが演奏され、子どもたちは踊りながら楽しんだ。心温まるひと時となった。

昨年2024年各地のクリスマス行事から今治教会と徳島教会を紹介します。

徳島教会



馬小屋の説明をしている様子

2024年12月24日(火)、徳島教会でキャンドルサービスを開催した。参加者は59人。今年はベトナム共同体の青年たちが洞窟風の馬小屋を制作し、イエスの誕生を祝った。初めて教会を訪れた子どもたちも楽しい時間を過ごした。待降節から日曜学校の子供たちは準備を始め、共同祈願や朗読の練習を重ねた。本番では緊張しながらも読む速さや声の大きさに気を配り、見事に役割を果たした。子どもたちの感想には「緊張した」「去年より難しかった」といった声があったが、その姿から成長を感じる。毎年の経験が子どもたちにとって良い思い出になることを願っている。



『3本の木』(アンジェラ・エルウエル・ハント著 / ティム・ジョンク画 / 辻紀子訳 / いのちのことば社 / 1,320円税込)



教会学校の劇の準備のためだったのでどうか、クリスマス近いある日曜日、オルガンの上にこの絵本が置いてありました。すぐに読んでしまえるだろうと思いい、ふと手に取ってみました。読み終えた時、私の目には涙があふれていました。これは山の上に並んで育った3本の木たちの物語です。木たちは自分がどんなものになりたいか、夢を語り合いながら立派な大きな木になっていきます。やがて切り倒され、それぞれが思ったものになっていきますが、それは彼らが思い

描いていたような素晴らしいものではないかもしれませんが、人は誰でも夢を持っています。それが思い通りにうまくいかなかったとき、私たちは自分の存在の意味のなさに打ちひしがれてしまっています。でも、イエスさまはそんな私たちの小さな思いを超えて、はるかに大きなご自分の夢のために私たちをお使いくださいます。その結果を私たちはこの目で見ることはないかもしれない、生きていく間にその意味を知ることはないかもしれない。でも、確かにイエスさまは人の思いに働きかけて、ご自分の夢である「御父の救いのご計画」に私たちを参加させてくださいます。

3本の木たちの生涯は、イエスさまによって大きな意味のあるものになりました。私たちの小さな夢もイエスさまの大きな夢になることができます。信仰があれば……。

ぜひ、この絵本を手にとってみてください。

\*聖ドミニコ宣教師道女会(新居浜修道院) Sr山内留美院長のご協力、ありがとうございます。

【プロフィール】



フェルナンド・マヨラル神父 (スペイン外国宣教会) 1941年1月22日 スペイン生まれ(84歳)

- 1967年 司祭叙階
- 同年 米国ロサンゼルス教区アスンシオン教会司牧
- 1970年 来日し、東京で日本語学習
- 1972年 高松教区 坂出教会司牧
- 1975年 高松教区 伊予三島教会司牧
- 1984年 フィリピンで研修会受講
- 1985年 スペイン外国宣教会本部(マドリッド)勤務
- 1991年 大阪教区 甲子園教会司牧
- 1996年 高松教区 丸亀教会司牧と聖母幼稚園園長
- 2015年 高松教区 新居浜教会・西条教会司牧 新居浜愛光幼稚園、西条聖マリア幼稚園チャプレン

垂水教会堅信式

喜びに つつまれた一日

堺教会堅信式

聖霊に導かれて歩み出す堅信の道



心待ちにしていた堅信式

12月8日(日)、待降節第2主日にカトリック堺教会で堺ブロックの堅信式ミサが行われた。司式は酒井俊弘補佐司教が務め、堺、泉北、金剛、なみはやの各教会から小学校5年生～60代までの20人が堅信の秘跡を受けた。

受堅者たちは9月から「秘跡」「堅信」「聖体の秘跡と感謝の祭儀」をテーマに、春名昌哉神父の指導の下、勉強会と分かち合いを重ねてきた。聖書の開き方から始まり、入信の秘跡について学び、特に堅信については「聖霊によって力づけられ、神に後押しされて派遣される、神の心を伝える大人としての歩みである」と丁寧に教えられた。

式の中で酒井司教は「堅信は一生に一度だけ受けることができる秘跡です。この秘跡を受ける大切な瞬間を心に留めながらミサに与りましょう」と話された。参加者全員が自分自身のこととして式に向き合うことができた。ミサはさまざまな国の言葉で進行し、多様なつながりを感じさせる場面もあった。受堅者が「イエス様からの唯一の掟『互いに愛し合いなさい』を実践できるように」と述べると、司教から「香油は良い香りのする油であり、堅信の秘跡の象徴です。その香りがたくさんの人を引き寄せるような信者としての生き方を貫いてください」と派遣された。

心に残る式に参加できたことに感謝しつつ、これから私たちも共に良い香りを放ちながら歩いていきたい。

(文 堺教会 佐藤明子)



12月15日(日)、垂水教会で堅信式が行われ、垂水教会から12人、明石教会から2人の計14人が受堅した。ミサは酒井俊弘補佐司教が主司式を務め、アマド・カバレロ神父と共同で行われた。当日は約170人が参列し、教会全体が喜びに包まれる一日となった。

キリストの真の証人として、言葉と行いで信仰を広める。

酒井司教の説教では、待降節第3主日が「喜びの主日」であることが強調された。この日、酒井司教は「喜びには子どもたちの喜びと大人の喜びがある」と語り、堅信の秘跡を通じて与えられる「大人の喜び」を受け取ることの大切さを説いた。そして、「間もなく訪れるクリスマスに向けて、喜びを分かち合う準備をしましょう」と参列者に呼びかけた。式後、子どもたちの歌う「マラナタ」の清らかな歌声が会場に響き渡り、感動に包まれた。また、アマド神父を中心に多くのボランティアが協力し、ケーキ作りや飾り付けなど心のこもったもてなしが行われた。これらの準備に対する感謝が人びとの心を満

たし、神の恵みを改めて感じるひとときとなった。受堅者の一人は、「大人の信者として信仰を深め、日々の祈りを大切にしたい」と決意を語った。また、「神様が常にそばにいてくださることを心に留め、周囲の人びとに寄り添える存在になりたい」と述べた。その言葉には信仰の喜びと新たな覚悟がにじんでいた。

垂水教会紹介

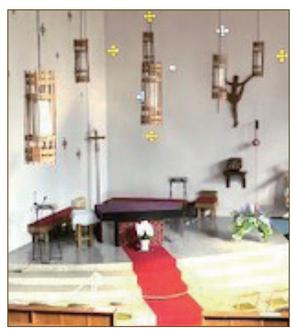
- ☎ 078-7071-4434
- ◆ 住所 神戸市垂水区瑞ヶ丘2-9
- ◆ 守護 被昇天の聖母
- ◆ 設立年月日 1942年1月
- ◆ 信徒数 1020人
- ◆ 特徴



1942年、太平洋戦争の直中に垂水教会は生まれました。聖堂内の照明である竹製のランプシェードは、今の建物で建てられた1962年に当時の信徒により手作りされ、祭壇の壁に付けられた。26の十字のスタンドグラスは、日本二十六聖人を表し、私たちの航海を導く星のように輝きます。駅からも近くなりたいへん便利な場所にありながら、自然も豊かで特に海岸の遊歩道は美しく、明石海峡大橋を右手に海が広がります。

◆おすすめの店

・行列ができるピザ屋「ラ・ピッツェリア・ノブ」(教会から1分) ・教会の前にあるうどん屋「錦」(信徒も良く利用します)。



# 聖ザベリオ宣教会 日本福音宣教 75 周年記念ミサ



2024年12月3日(火)、カトリック泉佐野教会において聖ザベリオ宣教会が日本における宣教を開始して、2024年12月に75年を迎える記念と2025年11月の創立者聖ガイド・マリア・コンフォルティの記念日までの一年を記念年とする開年を宣言するミサが前田万葉大司教と聖ザベリオ宣教会管区長と会員の司祭、共同司牧をする司祭方による司式のもと、多くの修道者、信徒が一堂に会した。

ミサの参列者の中には、75年の歩みの中で、献身的に働く聖ザベリオ宣教会の宣教師と出会い、福音宣教の賜物をいただいた信徒も多く参列されていた。喜びを大いに分かち合い、温かで和やかな中であって、75年を振り返りつつ、福音宣教の歩みの恵みに感謝し、更に新たな道を歩む決意を刻む荘厳な記念ミサを深く味わう様子が印象的であった。

12月3日、聖フランシスコ・ザビエルの祝日にあたり、私たち日本で活動する聖ザベリオ宣教会の宣教師は、日本での福音宣教を開始してから75周年を迎えることを公式にお祝いいたします。この日を開幕の日として、来年2025年11月の閉年までの一年を通して、これまでのさまざまな分野での活動を振り返りつつ、将来への使命感を新たにす節目としての貴重な機会といたします。

今日お祝いする聖フランシスコ・ザビエルは、東洋の偉大な使徒として、中でも日本における私たち聖ザベリオ宣教会にとりましては、宣教師の模範となる存在です。彼の福音宣教への情熱と献身は、日本での日々の福音活動を行う私たちにおいても、現在もお絶えずインスピレーションを与え続けています。宣教師として、それぞれの国々の異なる文化に適應し、新しい言語と向き合っ福音を広める彼の姿勢は、私たちが奉仕する人々の伝統や文化、気質や気持ちを常に尊重することの重要性を思い起こさせてくれます。



宣教会の歴史と今後の展望について語る管区長

私たちが日本での活動は、日本が終戦を迎えてから数年後の復興の時と重なり、まさに希望の中で75年前に始まり、

ました。当初宣教活動は思うように受け入れられず、失意を味わうことも少なくなかったようですが、若い宣教師たちの福音宣教の情熱は消えることなく、むしろさらに生き生きと活動を広げていきました。それ以来、現在に至るまで、私たち聖ザベリオ宣教会は、慈善活動、教育、霊的支援を通じて、日本に福音のメッセージを伝えてきました。そしてこれからも、聖フランシスコ・ザビエルに、日々心を込めて奉仕していきたく願っています。

最後になりましたが、私たちの福音宣教活動のために祈り、これまで支えてきてくださった

（日本管区 管区長 スック・ジョバンニ・パオロ・デリオ神父）

日本における聖ザベリオ宣教会の福音宣教の75周年を祝う

私たち聖ザベリオ宣教会にとつての聖フランシスコ・ザビエルの重要性

日本における聖ザベリオ宣教会の歴史

記念年の公式を開始

の、いうまでもなく各教区の司教様はもとより司祭と修道者の皆様、そして私たちと心を合わせて歩んでくださる多くの信徒の皆様のお力添えの賜物と感謝しております。

ワークショップには、教区からは、司教様方をはじめ司祭、事務局職員の13名が参加した。カトリック中央協議会・カリタスジャパン・ERSTからは12名の参加で、総勢25名で教区の災害対策について話し合われた。はじめに、ERSTの活動や組織について紹介された。平時での活動から、災害時には被災教区からの支援要請を受けて被災地に入り、被災状況の調査や教区の状況などを確認して、支援活動の提案を行う。そうすることにより、被災者と長く寄り添うためにどのような活動ができるかを教区とともに考えて提案を行う事や、サポートセンターの立ち上げが決まれば、サポート



教区本部事務局でのワークショップ

るかを教区とともに考えて提案を行う事や、サポートセンターの立ち上げが決まれば、サポート

トセンターやベースの開設準備を行う事、これまでの秋田豪雨災害や能登半島地震での活動などについて説明がなされた。ワークショップに入る前に、内閣府が作成した南海トラフ地震の想定動画を視聴し、災害時に教区事務局や教区にどのようなことが起こるかのプレゼンテーションが行われた。ERSTから、東日本大震災の経験を交えて多くの問い合わせが来ることや初動の際に教区外から求められることなどが分かち合われた。ワークショップは、全体とグループに分かれて行われ、全体では、震災が起きたときに「教区として」「事務局として」とどのような対応を求められるか、また、どのようなことが起こるかを想定して、ポスティングトを使ってそれぞれの考えを洗い出していく、分類をした後に、「教区」と「事務局」の

2グループに分かれて、その内容を深めていくことで、それぞれの立場で何が必要か、どのような備えが必要かと検討していった。最後の全体会では、グループワークショップの中から、今後の課題として「平時における備品や食料をはじめとする備えの必要性」「定期的な災害を想定した予備訓練」「支援体制確立のための人材や場所の確認」など、震災が起きた際に対応ができるように平時からの防災・減災の重要性が共有された。また、災害を学ぶ際は、被害ばかりを考えるのではなく、被災地はだんだんと気持ち持たなくなることから、おいしく非常食を食べる方法を考えるなど、楽しんで備えていくことが重要であることも共有された。

ワークショップ終了後に、カトリックたかとり教会へ向かった。今年が阪神・淡路大震災から30年という節目の年でもあるこ



これまでの30年の歩みについての話に聞き入る参加者

## 阪神・淡路大震災から30年 —教会ならではの災害支援を考える



## 被災地 それぞれの復興「新生」

ら、これまで30年のお話を聞いた。次に、ERSTメンバーがこれまでの被災地支援で見た教会の支援の特色を公表した。



\*白黒の写真は被災教会、救援基地等、当時の「教区時報」掲載によるもの



最後、これからの災害被災地支援に大切なことを考えていった。動画は、中央協議会ホームページで公開されている。

# 聞かせてください 神さまと出会った時のこと

## 〜エマオへの道で〜

### 第13回 サワリムットウ・ステイフェン神父

#### (鳴門・阿南教会 オブレート会)

南インド、タミルナー  
ド州出身。カトリック家  
庭に生まれ、私は4代目。  
毎朝ベッドで詩編91を唱  
えて一日を始めた。

父の仕事の関係で、子  
どものころは電気もない  
田舎の村でのびのびと過  
ごし、自由で楽しい毎日  
だった。小学校卒業時に  
地元に戻った。周りの雰  
囲気に戸惑いながらも自  
由に過ごしていると、い  
つの間にか「人の言うこ  
とを聞かない悪い子」と  
言われるようになった。

自信をなくし、孤独を感  
じた。母も非常に厳しく、  
友だちとも上手くいかず、  
生きていく意味が分から  
なくなった。

中学はカトリック校、  
登校前後は聖堂で祈るの  
が日常だった。ある日、  
いつものように一番後ろ

で祈っていると、ご聖体  
の近くに呼び寄せられた。  
「イエス様、どうして誰  
も僕を愛してくれない  
の？」と聖櫃の前で祈る  
と、涙が止まらなくなつ  
た。すると、周りが真っ  
暗になり、誰かが近づい  
てくる音がした。「私が一  
緒にいるよ」イエスが現れ、  
私の肩に手を置いた。  
「私が君を愛しているよ」  
その瞬間、重く沈んだ心  
が突然軽くなった。大き  
な山を下ろしたような感  
覚だった。イエスが一緒  
にいてくれると感じた初  
めての体験だった。

一週間後、同じ場所で、  
「本当に僕のこと好き？  
僕は嫌われものだよ」と、  
友だちに話しかけるよう  
な言葉でイエスに話かけ  
た。「私はあなたを愛し  
ているよ」再び声を聞い  
て、

その後、自分を信じ  
てくれる先生との出会  
いもあり、受験勉強に  
励んでいた時のこと。  
ある薬を飲んでアレルギー  
ギー反応が起き、体中  
のリンパがはれ上がった。  
病院に行くにも車  
がない。叔父が司祭を  
呼んだ。聖水を飲み、  
十字架の前で祈っても  
らうと、意識がなくな  
った。しばらくして気  
づくと、腫れがひいて  
いた。奇跡だった。

2つの体験を通して、  
中学を卒業したら司祭  
になろうと決心した。  
しかし、神学校では英  
語が必要のため、地元

の公立高校に進学した。  
そこではカトリック信  
者は自分一人。当時、  
男は結婚し家を建てて  
一人前という価値観が  
あり、司祭への夢もゆ  
らいだ。しかし、卒業  
を前にした日の朝、よ  
くわからないが、突然  
叔父に「神学校へ行き  
たい」と伝えた。

私は一人息子だが、  
両親は司祭になること  
を応援してくれた。し  
かし、修道会の召命の  
集いに行くと、一人息  
子ということで断られ  
た。途方に暮れていた  
ところ、小教区の神父  
が、インドに来たばか  
りのオブレート会を紹  
介してくれた。相談に  
どってつくられたすべ  
ての人の中におられる  
神との出会いを大切に  
して、今日も小教区で  
働いている。

「わたしを強めてくだ  
さる方のお陰で、わた  
しにはすべてが可能で  
す」フィリピ4・13

サクラファミリアで偶  
数月に開催中

# いのちを愛することが 平和の文明の基礎に

## 教皇、神の母聖マリアミサ



世界と宗教の対話を深めるために、バチカンの動向を日本の視点でお届けします。

2025年の元日、教皇フランシスコは「神の母聖マリア」の祭日のミサをバチカンの聖ペトロ大聖堂でとり行われた。

ミサの説教で教皇は、「神の母聖マリア」の祭日は、神がマリアの胎を通してわたしたちと同じ人となられたという主の降誕の神秘の中へわたしたちを再び導くものと述べた。

主の降誕の夜半のミサで聖なる扉が開かれ聖年が始まったことに触れながら、教皇は「マリアはキリストがこの世にお入りになった門である」という聖アンブロジオ司教教会博士の言葉を思い起こされた。

「神は、その御子を女から[...]お遣わしになりました」(ガラテヤ4・4)。使徒聖パウロはこう記すことで、神が人間の胎を通して本当に人となられたことをわたしたちに思い出せようとしている、と教皇は指摘。

今日、宗教に対する漠然とした考えから、神を「抽象的」存在として想像する傾向が多くの人びとに見られ、また、そうした考え方にキリスト者も誘惑されがちだが、それに対し、わたしたちの救い主イエス・キリストは、女から生まれ、血肉を持ち、顔と名前があり、わたしたちと関わることを望まれる方であると説かれた。

神の御子が、母の腕に抱かれ世話を受けるために小さくなられたならば、今日、御子は同じように配慮や傾聴、優しさなどを必要としているすべての兄弟姉妹の中におられる、と教皇は話した。

この「世界平和の日」にあたり、教皇は、マリアのようにいのちの尊い賜物を大切にし、胎児や子ども、お年寄り、苦しむ人や貧しい人をはじめ、すべてのいのちを世話し、守ることを学ぶように招いた。

そして、すべてのいのちに尊厳を取り戻させ、すべてのいのちを愛することが、平和の文明を築き、希望の未来を見つめるための基礎となる、と呼びかけられた。(バチカンニュースHPより抜粋)

# 訃報

Sr グラチア 八木橋裕子  
(援助修道会)は、2024年11月30日、老衰のため六甲修道院で帰天。98歳。奉獻生活73年。



幼いころ、父親の仕事上、家族全員でブラジルへ移住。少女時代の主な教育をブラジルで受け、11才の時アラサトゥバ(サンパウロ州)の教会で受洗。彼女の流暢なポルトガル語は人びとを助け、福音を伝える鍵となっていた。

10代の後半に帰国。その後、援助修道会に入会。1951年初誓願後は、多方面での使徒職に従事したが、神は55歳の彼女を再びブラジルの地へ呼ばれた。サンパウロ、オザスコなどで12年間、日系青年司牧、基礎共同生活づくりに参加。帰国後は

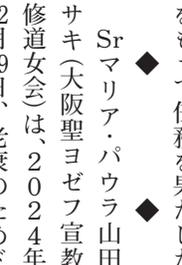
とても精力的に広島教区の呉、三次、三原、倉敷などの教会へ赴き、日本で働く日系ブラジル人やその家族を訪ね、困っている人には、親身に相談のつた。その姿はまるで日本とブラジルにかけの橋のようであった。

ホーム)で帰天。80歳。奉獻生活48年。



1976年初誓願後は、本会の霊性にもとづく女性と児童福祉のための施設での奉仕を中心として、特に、豊中の旧女子寮では女性の生活指導に熱心に尽力した。奉獻生活最後の10年間は、修道会の日本の会計責任者として、共同体的な責任を果した。

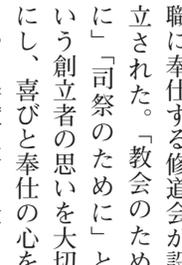
Sr マリア・パウラ 山田サキ(大阪聖ヨゼフ宣教師女会)は、2024年12月29日、老衰のためドムスガラシアで帰天。97歳。長崎県出身。奉獻生活75年。



1949年初誓願後の主な使徒職は、司祭館、大阪神学校、司教館、本修道院姉妹たちへの奉仕、介護施設、ガラシア病院でも働いた。召命の原点は、本会の創立者である田口枢機卿(元大阪教区長)との出会いであった。終戦後の夏、疎開先の親戚の家でお会いした時に「神父様と神学生への奉仕のための新しい修道会を作りたい」と説明を受け、「はい」と答え関目教会に集まった最初の入会者5人のうちの1人である。

第2次世界大戦後の荒廃した時代に多くの方が教会の門をたくようになり、多忙を極めていた司祭に協力し、助け手となる奉獻された修道女たちの必要性を感じ、司祭職に奉仕する修道会が設立された。「教会のために」「司祭のために」という創立者の思いを大切に、喜びと奉仕の心をもって奉獻生活を全うした。

Sr マリア・マルガリタ 山下リサ(大阪聖ヨゼフ宣教師女会)は、2024年12月30日、インフルエンザ感染症のためドムスガラシアで帰天。100歳。群馬県出身。奉獻生活72年。

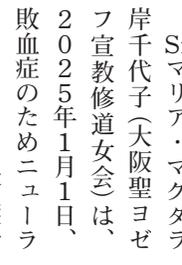


1969年初誓願後、百合学院聖母幼稚園、みこころ幼稚園、香里幼稚園、大森幼稚園、仙台南サレト幼稚園などの教諭、園長などを歴任し幼児教育一筋の奉獻生活であった。朗読が得意で、「読み聞かせ」を通して子どもたちの成長を助けることを大切にしていた。

1948年頃のカトリック新聞で「ヨゼフの精神を生き、神父様を助ける修道会」が大阪に新しくできたことを知り、とても興味深い思いで、東京から来阪して入会した。最初は大阪教区発行の「聲」社の編集に携わり、原稿集め、取材、校正、印刷所との折衝、支払いの金策などの業務を一人で担っていた。また、ガラシア病院が阿波座(大阪市西区)から箕面に移転する時も、本会創立者である田口枢機卿(元大阪教区長)の夢を共有し、病棟の建築等の諸問題などに協力した。その後の使徒職は関目、香里、仙

台南サレト園長職に、百合学院、ガラシア病院の事務長も経験した。音楽や文筆にも優れていて、タレントを生かした奉獻生活であった。

Sr マリア・マゲダラ 岸千代子(大阪聖ヨゼフ宣教師女会)は、2025年1月1日、敗血症のためニューライフガラシア(介護老人保健施設)で帰天。奉獻生活55年。



1948年頃のカトリック新聞で「ヨゼフの精神を生き、神父様を助ける修道会」が大阪に新しくできたことを知り、とても興味深い思いで、東京から来阪して入会した。最初は大阪教区発行の「聲」社の編集に携わり、原稿集め、取材、校正、印刷所との折衝、支払いの金策などの業務を一人で担っていた。また、ガラシア病院が阿波座(大阪市西区)から箕面に移転する時も、本会創立者である田口枢機卿(元大阪教区長)の夢を共有し、病棟の建築等の諸問題などに協力した。その後の使徒職は関目、香里、仙

台ナサレト園長職に、百合学院、ガラシア病院の事務長も経験した。音楽や文筆にも優れていて、タレントを生かした奉獻生活であった。

Sr マリア・マゲダラ 岸千代子(大阪聖ヨゼフ宣教師女会)は、2025年1月1日、敗血症のためニューライフガラシア(介護老人保健施設)で帰天。奉獻生活55年。

1948年頃のカトリック新聞で「ヨゼフの精神を生き、神父様を助ける修道会」が大阪に新しくできたことを知り、とても興味深い思いで、東京から来阪して入会した。最初は大阪教区発行の「聲」社の編集に携わり、原稿集め、取材、校正、印刷所との折衝、支払いの金策などの業務を一人で担っていた。また、ガラシア病院が阿波座(大阪市西区)から箕面に移転する時も、本会創立者である田口枢機卿(元大阪教区長)の夢を共有し、病棟の建築等の諸問題などに協力した。その後の使徒職は関目、香里、仙

台ナサレト園長職に、百合学院、ガラシア病院の事務長も経験した。音楽や文筆にも優れていて、タレントを生かした奉獻生活であった。

Sr マリア・マゲダラ 岸千代子(大阪聖ヨゼフ宣教師女会)は、2025年1月1日、敗血症のためニューライフガラシア(介護老人保健施設)で帰天。奉獻生活55年。

1948年頃のカトリック新聞で「ヨゼフの精神を生き、神父様を助ける修道会」が大阪に新しくできたことを知り、とても興味深い思いで、東京から来阪して入会した。最初は大阪教区発行の「聲」社の編集に携わり、原稿集め、取材、校正、印刷所との折衝、支払いの金策などの業務を一人で担っていた。また、ガラシア病院が阿波座(大阪市西区)から箕面に移転する時も、本会創立者である田口枢機卿(元大阪教区長)の夢を共有し、病棟の建築等の諸問題などに協力した。その後の使徒職は関目、香里、仙

# 来目



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

## 教区委員会主催

### ◆第3回 諸宗教シンポジウム

#### ⑤「他宗教の方から学んだ事」

日時 2/15(土)17:15~20:00

場所 大阪高松大司教区 本部事務局

登壇者 ソットコルノラ・フランコ神父・西村恵信住職・三橋 健教授

主催 諸宗教対話委員会

問 ☎06-6941-9700

✉ird-ecm@ostk.catholic.jp

### 信仰養成連続講座◆カテキズムの第2編「キリスト教の神秘を祝う」

当面休止

主催 使徒職養成委員会

問 ☎06-6941-9700

## サクラ ファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪高松教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をきく

日時 2/25(火)18:00~19:30

(夜の部)・2/26(水)10:30~12:00(昼の部)

お話 ジャンマリー・カゼンガ神父(堺ブロック・淳心会)

### コレーン神父と学ぶ聖書◆「主日のみ言葉に生かされる」

日時 2/10・3/10・4/14(月)

13:30~15:00(1~4月開講)

### 和田幹男神父◆聖書研究講座『主のしもべイエス』

日時 2/19(水)10:30~12:00

### 和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)

日時 2/10(月)・2/24(月・祝)

17:00~18:30

### 祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日19:00~19:30

問 サクラ ファミリア

☎06-6225-8871

✉f.sacra@ostk.catholic.jp

## 結婚準備講座

### 夙川教会

日時 2/1(土)~2/22(土)

16:30~18:00

参加費 ¥5,000(2名)

問 ☎0798-22-1649

### 六甲教会

日時 2/2(日)~2/23(日)

4回 14:00~16:00

参加費 ¥5,000(2名)

問 ☎078-851-2846

✉renraku@rokko-catholic.jp

※事前要問合せ(年2回)

## 黙想会

### 宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会

日時 2/27(木)・2/28(金)

10:00~15:30

指導 染野治雄神父(2/27)

山内十束神父(2/28)

参加費 ¥3,500

### ◆一泊黙想会

日時 2/21(金)17:00~

2/22(土)15:30

指導 染野治雄神父

参加費 ¥9,000

### ◆カトリック教会のカテキズム

日時 第1・3(水)10:00~12:00

指導 染野治雄神父

参加費 ¥1,000

### ◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第1・3(水)10:00~12:00

指導 山内十束神父

参加費 ¥1,000

### ◆新約聖書の世界への旅

日時 第1(月)19:00~

指導 山内十束神父

問 宝塚黙想の家

☎0797-84-3111

## 講座・研修会

### 講座「病者・高齢者のケアについて」

#### ◆第1回 具体的なケース(がん・認知症を中心に)

日時 2/9(日)14:00~15:30

#### ◆第2回 病者のケアについてのヒント

日時 3/2(日)14:00~15:30

場所 夙川教会 ブスケホール

駐車場無し

主催 阪神地区宣教評議会

阪神地区養成チーム

問 夙川教会 ☎0798-22-1649

### 「全人力を磨きケアの心を育む」ために◆ZOOMに

### よる高木慶子との対談会

講師 2/18(火)垣添忠生先生・

3/4(火)清水俊彦先生・3/11

(火)水谷 修先生・3/18(火)

柳田邦男先生

実施形態 全4回 18:30~20:00

ライブ配信(配信後視聴できます) 受講料 ¥10,000

主催 全人力を磨く研究所

申込・問 ☎info@zenjinryoku.com

☎075-855-8666

HPhttp://www.zenjinryoku.com

### 講座◆小さくされた人々のための福音

日時 第3(金)10:00

場所 神戸学生青年センター

参加費 ¥1,000

主催 神戸国際支縁機構

問 岩村 ☎070-5045-7127

## 集い

### 四旬節に心を合わせるテゼ

#### 共同体の歌◆曲の紹介(歌唱指導)と黙想によるエキ

#### ュメニカルな祈りの集い

歌唱指導とお話

井上友里子氏(テゼ共同体長期

ボランティア経験者・福岡教区)

日時 3/15(土)15:00~17:00

場所 枚方教会

主催・問 枚方教会

竹延神父 ☎072-841-5333

### 大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える

#### 15~35歳までの若者の集い

日時 第4(土)14:00~16:00

場所 大阪YCWセンター

(またはZoom)

問 レネ神父・水元

☎072-232-8063

✉osakaycw@gmail.com

HPhttp://www.ycw.jp/

### 要約筆記グループ「エフファタ！」

#### 練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

日時 第2(水)10:00~12:00

場所 教区本部事務局 1階会議室

問 障がい者委員会

✉dis@ostk.catholic.jp

### 精神・発達症(障害)者自助

#### グループ◆オリーブの集い

守秘義務と分かち合い

いつ来てもウェルカム

当日キャンセルOK

日時 第3(日)14:00~16:00

場所 姫里集会所

参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)

申込 吉川まで

問 ☎078-583-2525

✉yassan.yoshikawa@nifty.com

### 力障連大阪フレンドリー

#### ◆点字部の勉強会

対象 パソコン点訳に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方

日時 第2(火)13:30~15:00

場所 姫里集会所(奇数月)

北須磨教会(偶数月)

申込 笠松まで

問 ☎090-5661-4324

☎072-722-0271

✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

### 聴覚障がい者ボランティア

#### 会◆聖書の手話表現の学び・

#### 教区活動の手話通訳者派遣

対象 手話に興味をお持ちの方

※手話講習会ではありません

日時 第1・3・5(水)10:00~14:00

場所 姫里集会所

問 障がい者委員会

✉dis@ostk.catholic.jp

### マザー・テレサ共労者の集い

#### ◆大阪梅田教会

日時 第1(土)14:00

問 高塚 ☎06-6921-0693

### ◆加古川教会

日時 第3(火)13:00~14:30

問 森田 ☎079-426-5704

**リスナーの方 募集中!** **小さきテレジアの会**

「大阪高松教区報」を音訳し、データCDに録音して、大阪高松教区の視覚障害者の方々にお送りしています。データCDは、プレストーク・パソコン・MP3 対応のCD ラジカセで聞くことができます。

音訳というのは、一般に認識されている朗読とは、すこし違います。書かれている内容を正確に、あまり感情をこめすぎずに、ニュースを読むアナウンサーのイメージです。

問合せ 夙川教会小さきテレジアの会  
☎ 0798-22-1649  
Fax 0798-34-3585  
担当: 音訳(デジ)山口

大阪のカトリック病院 **ガラシア病院**

特徴的な医療  
ホスピス・糖尿病内科  
リハビリ・神経内科  
肝臓内科・循環器内科

医療法人ガラシア会  
理事長 前田万葉大司教  
チャペル 松本信愛 神父

〒562-8567 箕面市粟生間谷西 6-14-1  
☎ 072-729-2345

医療法人ガラシア会

ひとりで悩まないで  
~私たちに聴かせてください~  
カトリック大阪高松大司教区 **ハラスメント相談窓口**

※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。

電話番号:06-6941-9718

相談窓口受付時間  
月・火・金曜日(祝日を除く)  
午前10時~午後4時

あなたの悩みを親身になって受け止めます。秘密は必ず守られます。

2024年度冬 人事異動(2次)

案内・報告

※( )内は現任地。Bはブロック

【姫路地区】  
▽Fr 赤岩富夫(姫路中B協力)はJOC  
協力司祭(姫路中B 協力司祭は解任)

**2月司教予定**  
(下記行事等日程以外)

- 2/16 枚方教会 堅信式(†S)
- 2/26 愛徳カルメル会 奉獻生活75・50周年祝ミサ(†S)

†M=前田万葉大司教  
†S=酒井俊弘補佐司教

**はばたき**

阪神・淡路大震災から30年が経つ。当時の大阪教区は、第二バチカン公会議以降の教会刷新の歩みに、被災者支援からの気付きを加え、「交わり証しする教会」という使命と7つの教会像を示した。3年後には、震災後に発出された文書をまとめた冊子が刊行され、学びの機会が多く設けられた。昨秋閉幕したシノドス総会のテーマは「共に歩む教会」であった。最終文書には、これからの教会の宣教指針となり得る具体的示唆があると聞く。また新たな歩みを共に学びたいと願っている。

(神戸地区 堀口和弘)

行事等日程			
2月			
11	火	世界病者の日	
12	水	10時半 顧問会・責任役員会	
17	月	[臨時司教総会] (~21日迄)	
26	水	10時半 司牧者集会	
3月			
5	水	灰の水曜日(大斎・小斎) 四旬節愛の献金(四旬節中)	
9	日	新教会建設献金の日(献金)	